

2018年4月吉日

各位

日本保険・年金リスク学会  
研究会担当理事 大塚・河野・滝澤・田中・吉田

## JARIP 研究会のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本保険・年金リスク学会（JARIP）の研究会を下記のとおり開催しますので、各位の積極的なご参加をお願い申し上げます。

敬具

記

### 1. 研究会の概要

講演題目：「保険会計－IASB の概念フレームワーク・IFRS 第 17 号を巡って－」

日時：2018年6月1日（金曜日） 開始：14:00、 終了：17:00

場所：早稲田大学 早稲田キャンパス 11号館 4階大会議室

早稲田大学へのアクセスはこちらをご参考にしてください

<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

早稲田大学のキャンパスマップはこちらです

<https://waseda.app.box.com/s/ctvnsi6nckz4yk9kkrch64av0od0ai9t>

正門から入って大隈銅像の右奥の校舎です

講師：秋葉賢一氏（早稲田大学大学院会計研究科教授）

羽根佳祐氏（成城大学経済学部専任講師）

小川淳平氏（神奈川大学経済学部准教授）

（講演順、講師略歴は次項）

### 講演概要：

国際会計基準審議会（International Accounting Standards Board: IASB）において、20年にわたり検討が進められてきた保険契約に関する会計基準である IFRS 第 17 号が、2017年5月に公表された。このように開発が長期化した要因の1つとして、周辺制度やリスクマネジメントなどの観点からは経済価値ベースで資産や負債を評価する手法が取り入れられる一方で、保険契約の会計では、単なるストックの変動ではないフロー情報の意義があったと考えられる。

このような問題意識のもと、IFRS 第 17 号の設定の経緯や、保険契約負債の測定、利益の計算・表示など IFRS 第 17 号自体の概要はもとより、そもそも IASB では、どのような考え方で会計基準を開発しているか、2018年3月に全面改正された概念フレームワークに基づき、その内容を探るとともに、退職給付債務や金銭債務など負債の計上に関わる会計上の考え方、ストックの評価とフロー情報を巡る純利益とその他の包括利益（OCI）の論点などについて考察する。

## 2. 参加費 無料

## 3. 参加申し込み

期日:2018年5月29日(火)

学会サイトの下記【専用申込フォーム】より申し込みください。

<https://fs222.formasp.jp/c442/form6/>

- 申込者数が多数の場合は(定員100名)、申し込み後でもお断りする場合があります。
- 今回は参加者多数が想定され、参加申込を会員優先とするため、次の方式とします。

- ✓ 会員(含. 法人会員の3人目まで)の参加申込は、本案内文発信後、即時受付開始します。
- ✓ 非会員(含. 法人会員の4人目以降)の参加申込は、5月8日から受付開始します。  
このため、仮に5月7日以前に定員に達した場合、非会員の方は申込できません。

## 4. 講師略歴(講演順)

秋葉賢一氏(早稲田大学大学院会計研究科教授)

1986年横浜国立大学経営学部卒業後、英和監査法人(現 有限責任あずさ監査法人)に入所し、1989年公認会計士登録、同法人代表社員を経て2009年から現職。この間、企業会計基準委員会(ASBJ)主席研究員、金融庁 企業会計審議会 幹事、日本銀行金融研究所 客員研究員などを務める。

羽根佳祐氏(成城大学経済学部専任講師)

2014年早稲田大学大学院商学研究科 博士後期課程単位取得退学、早稲田大学助教を経て2018年から現職。博士(商学)早稲田大学

小川淳平氏(神奈川大学経済学部准教授)

2007年京都大学大学院経済学研究科 博士後期課程修了、名古屋市立大学大学院経済学研究科准教授を経て2016年から現職。博士(経済学)京都大学

## 5. 共催 早稲田大学大学院会計研究科

なお、本研究会は日本アクチュアリー会公式CPDの対象です。本研究会に参加した日本アクチュアリー会正会員は3単位のCPDを得ることができます。